

## 各センター及びサービス・活動の紹介

原本は、カブラマタ・コミュニティ・センター（以下「C.C.C.」と略す）を基幹に、複数のコミュニティ・センターが各々実施する移民支援関連事業の報告の合本として編集されています。神奈川の地域福祉実践のひとつの参考とするために、C.C.C.の行なう事業・活動の概況を、以下8つの項目で整理しました。

- 1．設置目的等
- 2．専門スタッフと多言語対応
- 3．スタッフの養成・研修
- 4．個別サービス（活動）
- 5．情報センター機能
- 6．行政及び関係機関・団体との連携
- 7．運営等
- 8．財源

## CABRAMATTA NEIGHBOURHOOD CENTRE

### 1 カブラマタ・コミュニティ・センターのネットワーク

#### 1. カブラマタ・コミュニティ・センターのプロジェクトの目的

英語を母語としない移民を対象に生活支援を図る場合には、アドボカシーとケースワークが福祉を充実させるアプローチとなる。特に女性と中年の人々は、英語力不足と自己主張不足が原因で、不利な立場に追いやられがちなので留意しなければならない。まちづくりに際して、すべての要求を満足に叶えることはできない。時には、利用者の突発的な危機を乗り切るために、ケースワーカーが利用者の代理を務めることもある。

利用者がセンターと関わるきっかけとなるのは、直接サービスを提供するワーカーを通じた場合が多い。コミュニティワーカーにはすばらしいネットワークがあるので、ケースワーカーは必要とあらば利用者を彼等に差し向けることもある。なお、サービスを受けた利用者が、グループや運営委員会のメンバーになることも多い。

このプロジェクトを推進するにあたって、カブラマタ・コミュニティ・センター（以下「C.C.C.」と略す）を基幹に6センターがネットワークを形成し、事業・活動を展開している。

#### 2. 専門スタッフと多言語対応

C.C.C.がバイリンガル・ケースワーカー・プロジェクトを開始したのは1980年代中頃であった。ワーカーにはセンターに集められた財源から給料が支払われている。バイリンガルワーカーを派遣するサービスは今後もコミュニティのニーズに合わせ増やす予定で、フェアフィールド言語代弁プロジェクトの中には、バイリンガル福祉ワーカー・チーム所属のワーカーもいる。

現在クメール語、ベトナム語のプロジェクト拡大の必要に迫られている。又、東欧からの難民に対応するため、ボスニア人ワーカーが必要となっている。

##### 1) バイリンガル福祉ワーカーの派遣

アラビア語、スペイン語、中国語、ベトナム語で定期的なケースワーク情報提供、必要に応じて他機関へつなぐサービスを行っている。ペルシャ語、アッシリア語のサービスもニーズが急増している。

##### アラビア語、スペイン語ワーカーの活動状況

担当地区で女性のための組織作りに関り情報セッション、英語クラス、自己開発、保健プログラムを支援している。ベトナム出身ワーカーも英語クラスを組織している。

移民に関するセミナーが、アラビア系オーストラリア人福祉協会とC.C.C.の共催で、移民家族、難民に関するものや人道的プログラムに沿った内容で行われた。また、議会見学、健康デー、就労問題にもアラビア語グループ独自の活動が予定されている。

##### トルコ語ワーカーの活動状況

社会保障部と連携して取り組んだ問題に満足のいく結果を得た。

裁判に持ち込まれて相談に来たトルコ人を、ワーカーが人道的立場から支援した例がいくつかある。

ワーカーがどうしてもいかわからない場合には、福祉権利センターが助言する。

一方、カブラマタ社会保障部所属のトルコ語通訳は、フェアフィールドのトルココミュニティの需要に対応しきれていない。コミュニティが増大している現実に対し、通訳の詰め時間が週2時間のみと短すぎるからである。問題を抱えた利用者がセンターを訪れても通訳に会えないことがあり、この事態に利用者は非常に困惑している。バイリンガル福祉ワーカーは、カブラマタ社会保障部のソーシャルワーカーに正直にこの事情を打ち明け、話を公にするようアドバイスを受けた。

年を追って、戦争と貧困から逃れてくる旧ユーゴスラビア、ブルガリアからのイスラム教徒が増えているが、彼等の60%がトルコ語を話し、内40%は英語を理解する友人や親戚を通訳として連れてくる彼等に対し、住居、食料、衣服、家具の面倒をみる。

ワーカーが扱った事例として、公立フェアフィールド小学校へ通う子どものケースと精神分裂症の男性のケースを紹介する。子どもには専門の心理学者を紹介し、そのケアのおかげで素晴らしい結果を得た。また、精神分裂症の男性には当事者団体である「精神分裂症の会」を紹介し、彼はその病気を恥じることなく、病気をそのまま受け入れて人生を送ること、障害と見なす必要はないことを学んだ。そして、現在彼はフルタイムの仕事を得て社会に復帰している。これこそが彼に最も必要だったことであり、これを通し彼は自分自身を尊重し、社会で価値があると認識できるようになった。他にも、ことごとく意見が対立していた隣人同士のトラブルを裁判所で解決する等、ワーカーは常に新しい分野に直面するが、移民の生活をほんの少しでも快適にできたらという思いを抱いている。

### スペイン語ワーカーの活動状況

スペイン語新聞やラジオ番組を通し、さまざまな活動への参加を呼び掛けた。反応は非常に良い。また、いろいろなコミュニティの団体に所属するワーカー達と話し合う機会を設けるようにしている。活動資金が不十分のため謝礼を払えない場合に、無料で教えてくれる講師を探すためである。他にもワーカーは、ボニリグにある女性グループの活動を組織化したり、C.C.C.やマウントプリチャード・コミュニティ・センターのコーディネーターが組織した定期的な保育付き活動をしている。スペイン人のコミュニティの人々が自らの道を見だし、自分に自信をもってくれるよう望んでいるのである。

## 2) バイリンガル代弁ワーカー

現在9人の常勤、非常勤のワーカーが当プロジェクト専門にセンターに配置されており、必要な時には通訳として対応できる。なお、ボスニア、ブルガリアからのイスラム教徒の需要が急増しており、トルコ語でのサービスを拡大する必要がある。

民族問題委員会を中心にフェアフィールド言語支援プロジェクトは、プロジェクトの方向性を変更した。主な変更事項は以下のとおりである。

- ・従来は言語支援に重きが置かれていたが、情報、支援及び代弁サービスを強調する。
- ・利用者は電話でなく直接センターへ出向き、担当者と会い（電話で利用者特有の情報を集約するのは不可能）、個人が置かれている背景や問題を話し合い、必要とあらば専門家の意見を仰ぐ。
- ・プロジェクト用財源の一部は、緊急の場合とサービスが行き渡らない言語グループ用に確保する。
- ・翻訳業務は行わない。

- ・フェアフィールド言語支援プロジェクトは地域に根ざした通訳、翻訳サービスのモデルとして作られた。しかし、他の地域を拠点としたサービスのようには発展しなかった。その理由は、このモデルが、連邦政府のサービスと重なっていたからである。
- ・当プロジェクトは、フェアフィールド地区における通訳、翻訳のニーズに応えることには成功したが、少人数の言語グループの人達にとっては、行政サービスへ繋ぐための地域に実在するニーズが何なのかをばやけさせる傾向があった。
- ・以前はコストに無駄が多かった。特に代弁サービスは、交通費の出費や待ち時間が多かったが、それらは母語の通訳による利用者との事前打合せで、ほぼ解決された。

### 3．専門スタッフの養成・研修

#### 1) アドボカシーと書類の書き方

〔主催〕エッティンガー家族支援センター（N G O）  
申請書等書類の書き方を指導。

#### 2) ワープロトレーニング

〔主催〕移民援助センター  
ワーカーが6週間のワープロ講座を受講するまで、コーディネーターはワープロの扱い方を教えるが、殆どのバイリンガルワーカーはコンピューターを使用する。

#### 3) コンピュータートレーニング

〔主催〕移民援助センター、移民雇用促進専門官

#### 4) プロの通訳ワークショップ

〔主催〕フェアフィールド援助センター  
現行の通訳サービスが利用しやすいかどうかを検討。

#### 5) プロジェクト再考ワークショップ

〔主催〕C.C.C.幹部役員とバイリンガルコーディネーター仕事の開発。

#### 6) アドボカシー資料編集

〔主催〕C.C.C.幹部役員とバイリンガルコーディネーター  
アドボカシー担当者が作成した統計資料を検討し、当該サービスを利用する際に障害となるものを明確に文章化し、適切な通訳機関に資料を公表する方法を開発。

#### 7) アドボカシーワークショップ（予定）

〔主催〕エッティンガー家族支援センター  
その他、バイリンガル代弁ワーカーは、バイリンガル福祉ワーカー向けのセミナーやワークショップに参加する。

### 4．個別サービス

#### 1) 特別保育

カブラマタ地区で週5回、午前中の保育を2名のスタッフで運営。10年を経て、市民センターに専用のスペースが確保されることになり、スタッフは今までのように荷物をその都度片付けなくてもすむようになった。

#### 2) 休暇中の保育

地域の小学校が施設を無料で貸してくれることがなければ、継続できなかった。資金不足が今

後の課題である。

### 3) 借家紹介サービス

西シドニー不動産サービスと共同で移民援助センターのアシスタントコーディネーターとバイリンガル福祉コーディネーターが、C.C.C.の一角で実施している。いずれ専門家からトレーニングを受け、彼らが借家紹介サービスの中心となる見込み。また近い将来、週1回(3 - 4時間)専用のホットラインも設けられる。

### 5. 情報センター機能

センターの活動、連邦政府あるいは他機関が提供するサービスに関する情報を活用するために以下のことを行う。

- 1) 統計資料の作成：各ワーカーが持つ利用者の最新情報を統計資料化することで、利用者がサービスを受ける際に障害となるものを明確にし、センターはサービス提供者に対しその旨を伝える。この資料の作成には多くの時間がかかる。
- 2) 広報：各ワーカーは必要な時には地域や民族独自のメディアを通じ、プロジェクト、特に新しいサービスについての広報活動を行う。又、グループの紹介、セミナーや情報宣伝等も必要である。コーディネーターは、他のサービス実践者やネットワークの会合で、自分達のサービスを継続的に紹介する。
- 3) ワーカー同士の情報の共有と相互支援。
- 4) バイリンガルワーカー個人専用の整理棚の設置。
- 5) ワーカーが利用しやすいように情報のマニュアル、パンフレット類を整備する。
- 6) 幹部役員とバイリンガルコーディネーターとの定期的で非公式な会合。
- 7) 上記2名に、バイリンガルワーカーを交えた会合を隔月に開く。

### 6. 行政及び関係機関・団体との連携～ネットワークとコミュニティへの参加～

ワーカーの中にはフェアフィールド移民・難民女性ネットワーク等の運営委員会やネットワーク委員会に属している者もいる。フェアフィールド移民・難民女性ネットワークのメンバーの4人は難民週間の式典で英語を話せない女性達のためにワークショップの手助けをした。バイリンガルワーカーは、C.C.C.のメンバーと共に、各コミュニティの活動が円滑に運ばれるように力を貸すことが多い。

現在、コーディネーターはフェアフィールド移民・難民女性ネットワークとオーストラリア国家諮問委員会に積極的に関わっている。連邦規模の委員会と違い州規模の委員会は、難民女性と彼等と共に草の根レベルで働くワーカーで成り立っている。

オーストラリア国家諮問委員会はオーストラリア難民協議会の一部で、12月に予定されている難民定住会議にワークショップを開いたり資料を配布したりして、積極的に参加するよう呼びかけている。

### 7. 運営等

#### 1) 計画

コーディネーターは定期的に理事と会い、プロジェクトやサービスが必要な地域に行き届いているか、さまざまな視点から検討し、それを基にレポート、提案や予算案の作成をする。

#### 2) 監督と支援

定期的なミーティングやスタッフの評価は各ワーカー、あるいは同じプロジェクトの仲間で行われ、新しいスタッフに対しては随時サポートしていく。コーディネーター同士もサポートし合う。

### 3) 運営委員等の仕事

コーディネーターはワーカーのためにスペースの確保、事務用品の補充や道具の注文を行う。また運営委員は次頁のように構成されている。

## 8. 財源

昨年は、民族問題委員会からバイリンガルワーカーに対する資金援助がカットされたが、今年はフェアフィールド言語支援プロジェクトから派遣されたアドボカシーワーカーに対し、資金援助されることを望んでいる。

なお、地域サービス局がパートタイムのコーディネーターの派遣プロジェクトの資金援助再開を申し出てくれたおかげで、運営が非常に円滑に運べるようになった。

ス タ ッ フ	財 源
代表・コーディネーター	地域サービス局（行政）
経理職員	C.C.C.
庶務担当職員（非常勤）	C.C.C.
事務局長	西シドニー援助機構

事 業 費	財 源
特別保育	地域サービス局（行政）
休暇中の保育	地域サービス局（行政）
フェアフィールド言語支援プロジェクト	民族問題委員会（NGO）
バイリンガル福祉ワーカー派遣プロジェクト	地域サービス局（行政）

## 運営委員会メンバー数

1 . カブラマタ・コミュニティ・センター (C.C.C.)	<u>7 名 ( 男性 3 名女性 4 名 )</u>
2 . フェアフィールド移民援助センター (FMRC)	<u>7 名 ( 男性 1 名女性 6 名 )</u>
3 カラマー・コミュニティ・センター	<u>6 名 ( 男性 2 名女性 4 名 )</u>
4 . マウント・プリチャード並びに カブラマタ西コミュニティセンター	<u>5 名 ( 男性 2 名女性 3 名 )</u>
5 . 女性のシェルター ( ロータスハウス )	<u>5 名 ( 男性 2 名女性 3 名 )</u>
6 . チリ人協会	<u>4 名 ( 男性 2 名女性 2 名 )</u>
7 . ニカラグア・コミュニティ協会	<u>5 名 ( 男性 2 名女性 3 名 )</u>
8 . 青少年のためのサービス	<u>10 名 ( 男性 6 名女性 4 名 )</u>
9 . フェアフィールド住宅改造および営繕サービス	<u>6 名 ( 男性 3 名女性 3 名 )</u>

\* 運営委員会メンバーは、各センター、協会、サービスの運営に携わるが、スタッフとしても働き、直接サービスを提供する。

\*\* 運営委員会メンバーは男性、女性の両方で構成される。それはニーズを保有する側の性や価値観によって相談しやすい相手、しにくい相手があることの配慮のあらわれでもある。

# FAIRFIELD MIGRANT RESOURCE CENTRE

## 2 フェアフィールド移民援助センター

### 1. 目的等

ガルバリー・レポートの提言に沿って、移民の定住を促進するために設置された当センターは、定住者が地域サービスを利用すること、当事者組織を支援することを目的としている。これらの目的は次の活動をとおして達成される。

情報提供

他機関への紹介

グループ活動のための場所、資料、図書と必要な援助の提供

入国間もない移民のフォローアップ

地域に必要なサービスのための資金と人材のコーディネート

地域の市民運動と地域ニーズの調整及び支援

多文化共生に必要な活動への支援

当センターは次の課題を重視し取り組んでいる。

刑務所で教育と保健指導サービスを提供すること

短期間で地域社会へ復帰するための機会提供と支援

難民申請中の人々の解放と社会参加

長期間監禁されているボート・ピープルの解放と永住ビザの提供

### 4. 個別サービス（活動）

#### 1) カブラマタ青少年特別対策本部

インドシナの少年少女による覚醒剤使用と暴力事件の増加のため、フェアフィールド移民援助センターと C.C.C.が合同で対策本部を設置した。地域の市民団体と行政機関の代理人がメンバーとなっている。月一回の会合を通して、目的達成のために次のプロジェクトを実施している。

英語を母語としない若者のための研修

18 ~ 25 歳の住所不定のような無職少年 10 ~ 15 人に一年間の研修をする。研修を通して若者たちに社会参加の道を開くとともに、偏見の解消を図る。

研究

エッティンガー・ハウスと一緒に、入国管理局等の依頼によって、若者の家出の原因や援助方法、調査研究を行う。

街頭カウンセリング派遣グループ

覚醒剤とアルコール中毒防止のためのカウンセリングを街頭で行う。

カブラマタ深夜バス

金曜と土曜の深夜に若者が集まる地域を走り、ドラッグ・アルコール麻薬防止の指導、注射針の交換、治療機関の情報、カウンセリング、教育、住居と資金の相談、公共サービスを利用するための指導を行う。バスのスタッフは、フェアフィールド・リバプール青少年保健チームと C.C.C.の補導員である。



協議会

地域の課題について当事者と行政機関と協議する。

フェアフィールド・リバプール青少年保健チーム

女性のシェルター（LOTUS HOUSE）

少年院出所後の社会復帰支援プログラム

## 2) 雇用について

失業問題が深刻なこの地域で、積極的に関連情報やプログラムを提供し働きかける。1992 年から職業安定所と密接な関係にあり、共同で雇用開発プログラムを開発した。

## 3) フェアフィールド保健サービス多文化委員会

センターのコーディネーターは地域代理委員の一人として、移民が公平にサービスを利用できるよう働きかける。また保健問題における人種差別の撤廃政策を促進する。

## 4) 集会所

地域活動グループへの集会場所の提供

## 5) フェアフィールド言語援助プロジェクト

通訳サービスとバイリンガル支援ワーカーズの研修のためのワークショップ

## 6) 移民登録

当センターは移民相談を行っているため、ビザ申請や切り換えに関する情報も提供する。また、不法入国者からの相談も受ける。

## 7) 借家

借家は移民の一番深刻な問題として、センターにおいて大きな課題となっている。不動産協会とともに、フェアフィールドとカブラマタ地域でバイリンガルワーカーズによる借家情報相談サービスを行っている。借家の借金、立ち退き、修理、契約終了、公共住宅の申請等、様々な問題を相談員がアドバイザーとして協力、解決策を探る。

## 8) ティモール口述歴史グループ

地域にティモールからの難民で虐待や心の傷を持つ者がいるので、毎週金曜に集まって自分たちの文化や体験を語り、グループ・セラピーを行う。東ティモール文化センターもこのプロジェクトに協力している。

# 5. 情報センター

## 1) ニュース速報

お知らせは多言語で地域の民族グループや組織に配布される。その内容は保護施設への入所、移民への経済給付の制限、移民登録制度、他である。

## 2) 情報交換会

移民の生活問題を取り上げ勉強会形式で情報交換を行う。その内容はセンターのサービス、移民を取り巻く問題、多文化主義に関するコースや公立校の学生への説明である。海外から情報が求められることもよくあるので、センターは対応している。

# 6. 行政及び関係機関・団体との連携

1992 年から当センターは雇用調節事務所と密接な関係にあり、共同で雇用開発プログラムを促進してきた。

また、他の移民援助センターと連携しながら次の課題に取り組んでいる。

地域に根ざした英語習得プログラムと学習機会の拡大

雇用に関する情報と相談サービスの仕組みの改善

移民の到着後 6 カ月間の雇用禁止期間の撤廃

難民申請中の人々の保険制度加入の拒否と健康状態の悪化の研究グループの設立難民申請直後から 経済給付を受けるための許可（現時点では 6 カ月の期間が必要）

## 8 . 財源

ス   タ   ッ   フ	財   源
移民援助センター・コーディネーター	移民局
移民援助センター・コーディネーター助手	移民局
移民援助センター・コミュニティ・ワーカー	移民局
移民援助センター・事務員	移民局
移民局多文化を配慮した高齢者援助サービスの コーディネーター定住促進専門ワーカー	西シドニー援助機構 / 地域サービス局 移民専門資格認定機関
定住促進事務員助手	移民専門資格認定機関
就職情報交換クラブ・コーディネーター	西シドニー援助機構
難民女性支援ワーカー	移民局
インドシナ青少年支援ワーカー	移民局

# SPECIAL MIGRANT PLACEMENT OFFICER ( SMPO )

## 移民の定住促進プロジェクト

### 1 . 目的等

このプロジェクトは、英語を母語としない無職の移民に情報を提供し、雇用と職業訓練を行うことを目的としている。

カウンセリングや他機関につなぐサービス、情報サービス、職業紹介サービスを通し職の無い移民をオーストラリアの労働市場へ送り込むことを目的としている。また、地域の失業者を対象としたトレーニングプログラムを考案、実践する目的もある。

去年は 400 人の利用者の内 248 名をトレーニングプログラムあるいは就職斡旋した。

### 2 . 専門スタッフ

今年度、新たな追加資金が入ったのでパートタイムの事務アシスタントを雇った。彼女は当プロジェクト利用者のデータベースを作成し、就職情報交換クラブ参加者やプロジェクト利用者の申請者等の手続きを担当している。

### 4 . 個別サービス ( トレーニングプログラムと活動 )

ウェセリルパーク職業訓練センターにトレーニングコースのプログラムの作成を依頼し、フェアフィールド移民援助センターと C.C.C. から支援を受けている。

#### 1 ) 移民の雇用とトレーニングプログラム及び就職情報交換クラブ

当プロジェクトは、他の似たプログラムの受講資格のない無職の移民に、仕事を探す能力を与えることを目的としている。

#### 2 ) 無職の移民のための支援プログラム

フェアフィールド家族支援センターと共同で行うプログラム。社会的に孤立し、自分自身の価値や自信を喪失した無職の移民に仕事を探す技術をつけさせ、仕事あるいはトレーニングプログラムにはいるための英語によるコミュニケーション能力を向上させることを目的としている。

#### 3 ) 英語クラスと職業訓練センターへのアクセス

15 ~ 18 人で構成する三つの英語クラスを開講。無職の移民に英語力をつけ、それをもとに職業訓練センターで勉強を続けさせることを目的としている。

コース終了後、オーストラリアの労働市場及びトレーニングプログラムに関する情報を提供し、実際に教育施設の見学も行う。TAFE で勉強を続けたり、他機関が主催するコースを受講する者が多い。

コースの組織化は当プロジェクト、実践はウェセリルパーク職業訓練センターが担当している。

#### 4 ) ウェセリルパーク職業訓練センターのファッションコース

参加者の多くは女性である。英語力の不足と交通手段を持たないカブラマタ地区の女性達のために、職業訓練センターは英語の特別クラスを設け、フェアフィールド移民援助センターはカブラマタからウェセリルパークまでのバスサービスを提供している。

#### 5 ) 配膳基礎コースと専門コース

当プロジェクト利用者の多くがオーストラリアの労働市場に適する能力がないため開設されたコ

ース。非常に好評である。

#### 6) ワークショップと情報デー

地域のラオス、ベトナム人グループが、コミュニティ内でトレーニングプログラムや転業訓練コースの情報、プロジェクトを提供することを目的に実施している。

#### 8. 財源

今年度、西シドニー援助機構から、特に英語を母語としない移民を対象とした就職情報交換クラブのための運営資金を調達した。

## MULTICULTURAL EMPLOYMENT AND TRAINING PROGRAM

### 多文化を配慮した雇用指導と職業訓練

#### 1．目的等

英語を母語としない移民の雇用能力を向上させることを目的として作られた。就職情報交換クラブを通じて判明した移民の就職を妨げている要因は以下のとおりである。

##### 英語力不足

オーストラリアの労働市場への適合力不足（・海外で取得した資格に対する関係当局や雇用者の認識不足、・移民の自己評価と自身不足、・移民の職業経験不足）これらの壁を破るために、英語クラスで情報を提供したり、各職業訓練センターでトレーニングプログラムを用意している。

#### 4．個別サービス

各就職情報交換クラブは3週間行われ、履歴書の書き方、電話のかけ方、面接の受け方などの基本的なものから、オーストラリアの労働市場、差別禁止法や雇用機会均等法までを習得させる。

例えば若者対象の就職情報交換クラブは、カブラマタ在住のインドシナの若者に職業に対する興味と技能について考えさせようというものである。職種とトレーニングコースに関する情報を提供し、職業訓練センターあるいは他機関で労働市場プログラムコースに入るよう勇気づけ、社会に適合していく道を探させるのに役立つ。

参加者は、これらのコースはある程度は役に立ったが、もっと前向きな援助とトレーニング、また、いつでも戻れる場所が欲しいという感想を述べている。

#### 5．情報センター機能

プログラム普及のために案内を地元のメディアと民族独自のメディアに送ると共に、店頭や図書館、職業訓練センターに貼った。情報はクメール語、中国語、ペルシャ語、ベトナム語、ラオス語、スペイン語、アラビア語、トルコ語、サモア語に翻訳し、リバプール、フェアフィールド、カブラマタ各地区の外国人支援サービスと社会保障省、大学に送付した。

#### 6．行政及び関係機関・団体との連携

カブラマタの労働事務所と C.C.C.、フェアフィールド移民援助センターの支援を得て実施している。

#### 8．財源

西シドニー援助機構の資金援助によるが、資金が底をつくので、今年度の就職情報交換クラブは 11 月で最終となる。フェアフィールド移民援助センターは新たな資金拠出先を見だし、来年度も続行したいと考えている。

# MULTICULTURAL AGED RESORCE SERVICE PROJECT(MARS)

## 多文化を配慮した高齢者援助サービスプロジェクト

### 1．目的等

カブラマタ、フェアフィールド地区の高齢者同士がお互いの経験を共有し理解を深めたり情報交換を行い、年代間のギャップを埋め、孤立しないことを目的としている。

### 4．個別サービス

#### 1) 多文化フェスティバルの開催

#### 2) 週刊ニュース「出発」の発行

#### 3) 高齢市民センター利用者の会の組織化

フェアフィールド市議会と連携しセンター利用計画を策定したり、市議会職員の援助を得て英語を母語としない高齢者がセンターを利用しやすいよう工夫をしている。

#### 4) エスニックフードの宅配

今後、健康に関するワークショップやセミナーの開催、プロジェクトをモデル化するための資料作成、高齢者のための多文化援助センターを発展させるためのロビー活動、交通手段の確保、ホームケアサービスの充実等を予定している。

### 6．行政及び関係機関・団体との連携

C.C.C.、フェアフィールド移民援助センター、フェアフィールド市議会高齢者サービス局、エッティンガーハウスの支援を得ている。

### 8．財源

発足時は西シドニー援助機構から資金が出ていたが、地域サービス局に引き継がれて現在に至っている。

## INDO-CHINESE YOUTH DEVELOPMENT OFFICER

### インドシナの青少年支援プロジェクト

#### 1．目的等

青少年のための政策、計画、開発プログラムの中にインドシナの若者のニーズを取り上げるように調査し、働き掛けることを目的としている。また、政府行政機関にインドシナの少年が抱えている問題を認識させ、ニーズに即した政策を展開させることも目的にすえている。

#### 4．個別サービス（活動）

インドシナの青少年には、戦争の傷をもち、家族が政治的理由で迫害され難民キャンプへたどりつくまで大変な体験をしてきた者が少なくない。英語学習の機会がなかったり、中学校での英語の補習が不十分なため社会参加の道が開かれていない。さらに、行政機関や社会で差別を受けているため失業率は高く、文化と世代のずれからくる悩み、マイナス的なメディア報道によって、思春期特有な心の悩みが増加している。これらを背景として、犯罪を犯した少年の生活状況や人権についての調査研究を行い、国の少年司法制度におけるインドシナ少年の問題を明らかにする。

政府の責任は、少年を国へ連れてくるところで終わらない。少年に明るい生活が保障されるようにフォローし、定住のための整備を行われなければならない。

#### 8．財源

ス タ ッ フ	財 源
コミュニティワーカー	移民局

# REFUGEE WOMEN AND CHILDREN PROJECT

## 難民女性と子どものための支援プロジェクト

### 1. 目的等

現在は、ボスニアのイスラム教徒、アフガニスタン、アルメニア、アッシリア、ペルー、場合によってはスリランカ（タミール）からの難民女性を対象としている。ラテンアメリカ、東ティモール、アラブ諸国よりも、むしろカンボジア、ラオス、ベトナムからの難民女性に焦点を絞る予定である。難民女性及び子どもが、定住するために欠くことのできないサービスを受けられるように、また、フェアフィールド市内で孤立した彼等に今以上の支援を行うことを目的としている。そのために以下の事柄を事業課題としている。

- ・ 彼等のニーズを把握しながら支援すること。
- ・ 入国間もない彼等に焦点を当て、より充実したサービスの企画、調整、代弁とサービスの浸透を意識してプロジェクトを立案すること。
- ・ 連邦政府あるいは NGO の主なサービスの対象範囲を広げ、フェアフィールド市に居住する難民女性や子どものニーズに応えられるようにすること。
- ・ 難民女性のために公正、社会正義に関連した問題の代弁すること。
- ・ フェアフィールド市内の文化統合意識の拡大と社会調和の推進。
- ・ 各民族コミュニティとワーカーがまちづくりの基本理念にそって技術を高める。
- ・ 入国間もない難民女性と子ども達特有の問題を明確化し、強調すること。

当プロジェクトのおかげで、難民女性の生活の質に関わる公聴会に、多くの難民女性を参加させることができた。また、難民女性及び子ども特有のニーズを把握しただけでなく、地域全体で彼等を支援したので、1993 年はすべての女性が望ましい労働技術、情報を共有した年と言える。と同時に、特にブラッド拘留センターのボートピープルの人権に関するロビー活動とアドボカシーに焦点を絞った新旧の女性ネットワークの連帯が非常に強化された。

### 4. 個別サービス（活動）

#### 1) フェアフィールド多文化家族計画協会

- ・ 難民女性と子ども達の保健サービスを中心に支援している。
- ・ 収容施設で庇護を必要とする人々のニーズやブラッド収容センターにいる女性の健康状態を調べるグループを組織した。
- ・ クメール収容所の収容者にサービスを提供しているワーカー向けのアドボカシーサポートを行った。
- ・ ネットワークの強化によってワーカーはサービスや利用者を特定した。

#### 2) フェアフィールド移民・難民女性ネットワーク

- ・ 国際女性デー、難民週間、リブウルマンの国際視察等の催しを通し、女性や子どもが安心して暮らせる地域作り、難民の平等な権利、女性の健康問題等をアピールした。
- ・ 難民女性に関するオーストラリア全国相談委員会

難民女性に対し、就職及びトレーニングの機会を提供し、成功している。



- ・シドニー西部地区支援計画

文化的背景の違いを越えた女性間のネットワークを強め、難民女性特有のニーズに合ったプログラムを作成し、アドボカシー、ロビー活動等を支える団体の組織化を目的としている。資金援助を受けられるかどうか関係省庁で検討中。

- ・国際女性派遣団

カンボジア、ラオス、タイ、ベトナム、中国からの代表団と共に、オーストラリアにおける難民女性の定住問題、収容施設及びそこに居住する女性の健康問題、ボートピープルの人権問題などを取り上げ、連邦政府対応の遅さを示した。ニューサウスウェールズ連邦委員会は、「難民女性と子どものための女性委員会」と国境を越えて連帯し、ニューヨークで開催される国際会議へのメンバーの交通費を負担することになった。

## 8．財源

1993年から95年の間は移民局の資金で運営されるが、その後は別の財源を求める。

## CARRAMAR COMMUNITY CENTRE

### 3 カラマー・コミュニティ・センター

#### 1. 目的等

過去2年間を振り返って、当センターはコミュニティにあって常に革新的な試みと住民とのパイプ役を果たしてきたといえる。

センター利用者の75%が英語を母語とせず、出身国は南アメリカ、インド、トルコ、ベトナム、ドイツに及んでいる。利用者数も着実に増加し、情報提供から保育、家庭内暴力、住宅紹介、目的地案内サービスに至るまで多岐に渡るサービスを展開してきた。

#### 2. 専門スタッフと多言語対応

フルタイムの受付を雇うことが、トレーニングや仕事を適切にできる人にやってもらうという計画で強調されたため、外国人支援サービスと職業訓練局からの補助金をその給料に当て、我々は16週間事務アシスタントを雇った。

#### 3. 専門スタッフの養成・研修

保育所のスタッフはチーム作り、ストレスのコントロール方法、時間配分の仕方、行動コントロール方法から応急処置の資格取得等のトレーニングを年間を通して受ける。

#### 4. 個別サービス

##### 1) キャラバン・パーク・サービス\*

当プロジェクトは地域サービス局からコミュニティ援助プログラムの一環として資金援助を受けているが、センターが資金不足のためサービス時間を削減した。

サービス内容はランスドーンとフェアフィールド西キャラバン・パークスの住民を対象とした情報サービス、他機関につなぐサービス、まちづくりのための諸サービスで、個人、グループ活動やミーティングの場所は確保されている。

具体的には、失業者に対して工芸、陶芸、マーケティング、コンピューター、ビデオ制作、戯曲づくり、健康とフィットネスの基礎などのクラスを開催。また、週間ニュースの発行と配布、乳児の健康診断、母親のグループ組織化、学齢期の子どもの休日の活動、両親による子供のための文化グループ等がある。

\*キャラバン・パークとは、家のない人々がホームレスにならずに生活できるようキャラバン等を使いながら暮らしている地域のこと。

住民が関心を寄せている話題に、子どものための活動、家庭内暴力、アルコールとドラッグ等がある。低所得者層へ教育機会を広める運動も展開している。学校の休日には若者を対象に、オーストラリアに古くから伝わる芸術、工芸、伝説を教える機会を設けた。この催しとこれに関った芸術家は新聞に取り上げられ、芸術交流プログラムを新たに作成する機運も出てきた。

今後予定しているコースは、陶芸、福祉人権センター主催の社会安全デー、警察と地元住民によるキャラバンパークの保安、盆栽見学、コミュニティ・ガーデン等である。

## 2) カラマー学童保育

## 3) 休日ケアセンター

両サービスとも公立ピラウッド校で行われている。

コーディネーター役のスタッフの一人が個人的な事情（息子の病気。不幸にも彼は亡くなった）で1年間仕事を離れたが、その間もスタッフのチームプレイと熱心さで、事業を続けることができた。彼女は仕事に復帰したが、運営委員会に彼女をもとのコーディネーターのポストへ戻すよう働き掛ける予定である。

利用者の75%の出身国が南アメリカ、インド、トルコ、ベトナム、ドイツに渡るが、自然に文化の違いを受け入れ、文化統合が図られている。様々な国の音楽が流され、子どもたちは喜んで受け入れているのである。また、通常のプログラムに軽度の障害を持つ子どもを実験的に受け入れたところ、子どもだけでなく、親、スタッフにも信じられないほどの成果が見られた。そこで、正規のプログラムとして近い将来位置づけられる可能性が高くなった。

センターが地域の学びの場として次第に浸透してきたので、私立大学や高校が生徒を送り込むようになったとともに、自発的にボランティアとしての単位を当センターで取得しようとする生徒も出てきた。これは、ボランティアの中からセンターで働く人の候補や子どもに熱心に接してくれる人のリストを作成できることにもなる。

景気後退に伴い当地域にも失業者が増加し、利用する子ども数は減少傾向にある（子どもの50%以上の親が失業し1993年始めには利用者が30%減少した）。

サービスは定期的に宣伝されているが、「オープンデー」を設ける予定である。この「オープンデー」には地元の企業、センターのボランティアやスタッフ、公立ピラウッド校が協力する。この二つのプロジェクトは、財政のバランスを注意深く見守らなければならない。

## 4) 障害児サービス

4歳から8歳までの中度から重度の障害を持つ子どもを対象に、介護者の休息を目的としてレスパイト・プログラムをボリニグにある養護学校で休暇中に1週間行った。

## 5) 保育所

家族とコミュニティが積極的に関わること、そして多文化主義の保育を目的に実施している。子どもだけでなくスタッフも様々な文化的背景を持ち、8カ国語が通用する。地域に根ざした機関の活動の多くがそうであるように、この保育も親を勇気づけ、巻き込むことを第一義に考えている。センターの活動は保健、住宅紹介、コミュニティサービスのガイドラインに沿って行われている。

遊び場に関わる様々な改善事項にも触れておく。日陰を作るために様々な苦勞をしていたが、砂場、庭、遊び場にも日陰を作った。屋根をつけかえ、新たに10本の木を植えたが、これらは地域サービス局の設備交付金によるものである。建物内部は、網戸を設置したり、太陽熱を反射する色付けをしたりして、暑さをしのぐ工夫をした。

寄付集め委員会が様々な活動を通して得た寄付金は\$ 1309.00である。パズル、図書、人形劇、戸外遊戯施設、日除けパラソル等に使っている。

年間の行事としては以下のものを実施している。

バッジ授与会.....企業、議会、運営委員会、メディアなどの代表が招待される。

子供の日のピクニック...スタッフ、子供、保護者がさまざまな活動に参加。

敬老の日...祖父母がセンターに招待され活動に参加したりお茶を飲んだりする。

子供のための安全デー...子供が様々な活動に参加し、コインを集め寄付を募る。

安全講話会...フェアフィールド警察から警官が来て安全に関する話をする。

遠足

人形劇

今後、コンピューターとそのソフト、保護者向け情報提供、保護者向け図書室、Tシャツと帽子にプリントすること等を計画している。

## 7. 運営等

運営委員会の経験が浅い分、スタッフ個人が財政、運営をカバーしている。他にも、寄付集めに奔走する等、惜しみなく支援してくれる保護者を忘れてはならない。

## 8. 財源

C.C.C.派遣プロジェクトの予算の伸びを見てみると、1986年には年間約\$ 22,000だったが、1992 / 93年には約\$ 500,000になった。

コース運営はニューサウスウェルズの社会教育委員会の資金に依る。

住民が最も関心を寄せるのは寄付集めである。センターでの活動資金にするため、機会がある毎に寄付を募る。自治会は現在までに、\$ 400.00を集めた。また地元の企業の財政援助も忘れてはならない。

ス タ ッ プ	財 源
コーディネーター	地域サービス局（行政）
事務員（非常勤）	地域サービス局（行政）
事務員助手（嘱託）	労働省 / 職業訓練局
事務局長	西シドニー援助機構
キャラバン・パークのワーカー（非常勤）	地域サービス局（行政）

事 業 費	財 源
学童保育（非常勤） 2名	保健・住宅・地域サービス局（行政）
（嘱託） 3名	
休日ケアセンター（非常勤） 2名	地域サービス局（行政）
（嘱託） 4名	
統合保育ワーカー（嘱託） 1名	地域サービス局（行政）
カラマー保育所	保健・住宅・地域サービス局（行政）
保母 7名	地域サービス局（行政）
事務員助手（非常勤）	
調理員（非常勤）	
掃除婦	
補助職員（嘱託）	



# FAIRFIELD COMMUNITY ARTS NETWORK (FCAN)

## フェアフィールド・コミュニティ・アート・ネットワーク

### 1. 目的等

基本的には文化的な団体と個人との相互支援を目指し、既存のグループ同様、新規のグループも支援する。当ネットワークは独自性を求めて、できればコミュニティの文化発展の可能性やニーズに応えたいと願っている。他のグループや団体が主催するプロジェクトと手を結ぶだけでなく、独自の地域芸術プロジェクトを持つ所以はそこにある。当ネットワークはオーストラリアの中でも文化的多様性に溢れた地域で活動できることを幸せに思い、才能や伝統が創造的に表現されたもののほとんどに関わっている。

### 2. 専門スタッフ

専任職員と簿記係各 1 名が配置されているが、運営委員会、カラマー・コミュニティ・センター、C.C.C.のスタッフに助けられている（事務所はカラマー・コミュニティ・センター内）。

### 4. 個別サービス（活動）

長期に渡るプロジェクトが以下のとおり実施されている。

#### 1) 国境芸術ワークショップ

カブラマタで 1993 年初めに開催されたアメリカとメキシコ国境のワークショップ。国際的な芸術家との連携で最も知られている。

#### 2) 発見プロジェクト

カンボジア、ラオス、ベトナム出身の若者 30 人以上を巻き込んだもの。彼らは新国際センターの一角に「マルチメディア装置」と呼ばれるものをつくり、大いに楽しみ、学び、自分たちの芸術と人生の物語に多くの人を引きつけ、メディアにも注目された。

#### 3) インドシナ写真 = 物語制作プロジェクト

C.C.C.のドラッグ・アルコール問題担当ワーカーとの合同プロジェクト。1992 年 11 月のフェアフィールド芸術学校での展示会は成功し、素晴らしい写真や感動的な物語を披露した。似たプロジェクトから生まれた作品と共にこれらを出版するための助成金の申込みをオーストラリア議会に送っている。

#### 4) 「夢の束」～スペイン語と英語のバイリンガルの本～

地域の作家マリア・カノが中心となったワークショップから生まれた本で、92 年後半に出版された。この本は非常に人気が高くすでに在庫は無いが、ホイットラム図書館に行けば閲覧できる。似たプロジェクトでスペイン女性の戯曲ワークショップが長期間開催されているが、93 年前半はマリサと戯曲家クレール・ヘイウッドが新たなワークショップを開くまで休講した。「結婚式」は 1993 年末に完成する予定である。

#### 5) 多様性の問題に関するディスプレイ

エッティンガー・ハウスの家庭内暴力担当のワーカーであるアヌー・ブジョー・ハーを助け、ショッ

ピングセンター向けに多様性の問題に関するディスプレイを創作した。ランズドーン・キャラバン・パークに原住民芸術のワークショップを開く計画など、新たな提案が生まれるのを現在も待っている。

#### 6) グループ「躍動する芸術」の支援

芸術メディアの全ての分野の専門家 160 人をメンバーとする芸術家グループ「躍動する芸術」の支援を続けている。素晴らしいことにグループ「躍動する芸術」は、この地域で重要なフォーラムを発展させ続けている。

#### 7) コミュニティ・テレビ

コミュニティ・ラジオの視覚版で、来年度早々に開始予定である。当ネットワークは他地域に先駆けたこの事業を後押しした。C.C.C.との合同プロジェクトで、後に FLAT と名付けられるグループ作りに尽力したのである。テレビ番組の制作には多大な費用がかかるが、もしグループが成長し続けメンバーも関心を持ち続けるならば、芸術及びコミュニティの発展に非常に貢献することになるだろう。

最初の番組は、フェアフィールド移民・難民女性ネットワークが「難民週間」に行なった催しの制作である。

#### 8) その他

地域芸術や文化発展のためのロビー活動や、ネットワークづくりに関わり続けている。

#### 6. 関係機関・団体との連携

当ネットワークは独立したものだが、ネットワークや共催事業に対する関係省庁の芸術基金援助などを利用しながら、C.C.C.と密接に連携している。

また、情報を広め、接触し、助言を通してフェアフィールド地区のほとんどの芸術プロジェクトと連携してもいる。

93 年には、フェアフィールド市民芸術祭に積極的に参加し、ホイトラム図書館、公立学校、美術館、地元企業などと強い絆を結んだ。また、シドニー西部における芸術促進団体「創造的文化」とも連携を保っている。

## MT.PRITCHARD AND CABRAMATTA WEST COMMUNITY CENTRE

### 4 マウントプリチャード並びにカブラマタ西コミュニティ・センター

#### 1. 目的等

フェアフィールド多文化青少年プロジェクトとの協力によりカブラマタ西部とカンレイ・ハイツ地区の若者のための活動の推進を目指している。

当センターはフェアフィールド・コミュニティ・センターからカンレイ・ハイツにある乳児保育所の利用を許された。これによりコーディネーターは地域の調査プロジェクトの拠点を得たことになる。調査は地域社会が必要とすることや関心をもっていることを把握し、それに対応したサービスの提供を目的としている。

#### 4. 個別サービス（活動）

C.C.C.との協力で以下のサービスを実施している。またグループ活動、まちづくりも展開している。

##### 1) ニカ国語による福祉関連問題相談

週3回、英語が母国語でない人のためにアラビア語、中国語、スペイン語、ベトナム語の4カ国語で情報を提供する。住宅、移民、社会福祉、家庭内暴力その他の問題に関して経験豊かな職員が相談に応じる。このサービスは当センター管轄区域の英語が母国語でない人のコミュニティに必須のものとなり、過去12カ月間需要が増加している。

通常のサービス以外にもグループ活動を支援しており毎週アラブ女性たちの会合がもたれている。

##### 2) 学童保育：ハーリントン・ストリート公立校

8才から13才の子どもが対象。このプロジェクトの効果は以下のとおりである。

- ・今まで対象外とされた高学年の子どもをサービス対象に含むことができた。
- ・親子共に活動の選択や展開に参画できる。
- ・子どもの発達を促す様々な活動が個人教授で行われる。
- ・特別な事情がある子どもを受け入れているがプログラムにうまく適応している。
- ・働いている親たちが子どもの安全を心配する必要がない。
- ・送迎サービスがあるので広範囲の子どもが来れる。
- ・料金は可能な限り低く抑えられている。

##### 3) ハーリントン・ストリート休暇サービス C.C.C.の協力を得てハーリントン・ストリート公立校を会場に実施している。二年目にあたる。

##### 4) マウント・プリチャードとボニリグ果物・野菜協同組合

今年度、ボニリグ青少年センターのメンバー達と当センターが協力して活動を行ったが、93年4月から果物の価格低下と冬の到来を鑑み、活動を停止する。価格が上昇し始める9月末頃から活動を再開する予定。フェアフィールド市議会からの助成金で交通費を賄い、運転手の一人は大型車の免許を取得することができた。

##### 5) 50才以上のコミュニティ・グループ

過去14カ月、月1回の割合でマウント・プリチャード・コミュニティ・ホールや他地区のコミュニティ・ホールを会場に、親密でリラックスした雰囲気です話し合う機会をつくっている。現在メ



ンバーは 34 名で平均 16 名が参加する。

当センターは今までメンバーと相談の上、オーバン・ガーデンズ、ロシア・コサックショーなどへ日帰り旅行を企画してきた。また、グループの希望を入れて、食事療法と健康、高齢者の安全问题、年金の運用などについて外部から講師を招いて講演会を開催した。

さらに、マウント・プリチャードとカブラマタ地区の住民を対象とした懇話会に参加し、その経過は西シドニー地区アシスタント計画地域諮問委員会に報告され、討議に付された。民間または公共建物へのアクセスや地域での交通問題についてエッティンガー・ハウスがグループとの相談に応じ、フェアフィールド市議会の支援により低料金で運行するコミュニティ・バスが実現した。

グループは現在自立への道を歩んでおり、財務管理と資金集めのための委員会を選出したところであるが、当センターは引き続きグループの支援を行う予定である。

#### 6) 多文化遊戯グループ

週 1 回の活動に平均 10 人の子供が参加する。このグループは最近自立したが、当センターは引き続き以下の支援を行っている。

- ・備品の発注
- ・コピー
- ・電話
- ・広告と保険

グループの結成にあたり C.C.C.の職員からの多大な援助を受けた。また、ワーカーの人件費の補助も受けた。

#### 7) アラブ女性たちのグループ

最近結成され、週 1 回、マウント・プリチャード・コミュニティ・ホールないしはメルドラム・コミュニティ・ホールで会合をもつ。美容師の勉強を始めたところだが、先般、初めて遠足も行った。今後通例の会合の外、度々このような機会をもつことを望んでいる。当センターは会合の場所を提供し、求めに応じてグループのコーディネーターを支援している。

#### 8) 買物旅行

このサービスは 18 カ月続いており、バスに乗ったり歩いたり重い荷物を持つのが困難な人々、主に高齢の年金生活者を対象としている。この小旅行は年金が支給される週、すなわち二週間ごとに行われる。当初 8 人乗りの車を使っていたが、需要が多いため C.C.C.から 15 人乗りのバスを提供してもらうようになった。現在約 13 人がこのサービスを利用している。活動を自立させるため当センターは目下二人のボランティアの大型車免許の取得を支援している。

#### 6. 行政及び関係機関・団体との連携

当センターのコーディネーターはネットワークキング、擁護、支援を目的に、以下のグループ・組織に所属している。

- ・西シドニー・コミュニティ・フォーラム（フェアフィールド市との合同代表）
- ・フェアフィールド家族援助センター（運営委員会）
- ・フェアフィールド移民機関
- ・西部地区・スペイン語を母国語とする労働者たち
- ・バンクスタウン、リバプール、フェアフィールド・アクション・グループ
- ・Y S A アクティブ・キッズ・プロジェクト諮問委員会

## 8 財源

ス タ ッ フ	財 源
コミュニティワーカー	C.C.C. 地域サービス局 西シドニー援助機構

事 業 費	財 源
学童保育：ハーリントン・ストリート公立校	地域サービス局

# INNOVATIVE OUT OF SCHOOL HOURS CARE PROJECT

## - HARRINGTON STREET PUBLIC SCHOOL

### 放課後保育プロジェクト：ハーリントン・ストリート公立校

#### 1. 目的等

ハーリントン・ストリート公立校を会場に過去 22 カ月にわたり活動している。8 才から 13 才で英語が母国語でなかったり特別な事情がある子どもを対象とし、現在、34 人が登録、平均 28 名が参加している。参加希望者はまだいるが、送迎車が 8 人用であるため順番待ちとなっている。参加者の内訳は以下の通りである。

- ・ 8 才から 13 才 70 % (他はその兄弟姉妹)
- ・ 英語を母国語としない 67 %
- ・ 特別な事情 30 %

#### 4. 個別サービス (活動)

ダンス、皮細工、宿題の手伝いなど、スタッフが苦手な分野には外部の者を雇う。消防署、保健所、警察などからも講師を招く。個人教授による宿題の手伝いが行われているため、親たちは学校の成績の向上を目の当たりにして感謝している。近隣の学校から送迎サービスを行う。

#### 7. 運営等

すべての活動について親や子ども達と協議する。

#### 8. 財源

ス タ ッ フ	財 源
コミュニティワーカー	地域サービス局

# LOTUS HOUSE

## 5 女性のシェルター

### 1. 目的等

このシェルターへ収容された女性全員が性的、肉体的、精神的虐待を体験している。その大部分は 14 ~ 16 才で収入はない。身分証明書を持っていない女性も多く、公共機関の援助を受けるにも時間がかかる。多くは生活能力に欠けていて、精神的に不安定である。少女たちは地域サービス局、学校、地域の住民組織や警察に連れてこられる。一人でセンターを求めてくる者もいる。

当シェルターは、14 ~ 18 才のホームレスのインドシナ女性を 3 ~ 12 カ月保護するが、平均滞在期間は 8 カ月である。次のことを目的にすえている。

文化的配慮のある収容施設の短期入所

長期入所が可能な所の入所手続き及び支援

借家紹介サービス

安定した生活環境による自尊心と自信の育成

簡単なカウンセリングによるシェルター在住女性と家族及び保護者との調整

自分の生活を責任をもって選択するよう、将来の生き方について一緒に考える

ニーズに基づいたプログラム開発

在住者の生活技術習得の推進

住居問題への取り組み

地域と行政との連携

### 4. 個別サービス

#### 1) 緊急生活技術プログラム

在住者の必要に応じて次のワークショップを開催する。

- ・フェアフィールド家族計画多文化協会主催の『安全な性行為』『エイズ』
- ・青少年保健グループのスタッフによる性行為感染病についての知識と予防
- ・教育を受けるための知識、啓発と情報提供。職業訓練校や職業指導センターの視察も含む。
- ・地域サービス利用のための知識と見学。各所でのレクチャー。
- ・自立後の生活のためのワークショップに続き、住宅または入所施設の見学。
- ・日常生活訓練（料理、買物、洗濯、掃除、交通機関の使い方、銀行口座の開き方、各種手続きの記入方法）

#### 2) 教育的レクリエーション活動

在住の少女たちは地域で開かれるイベントに積極的に参加する。

#### 3) フォローアップ

シェルターを出た女性はいつでも電話で情報提供、相談他を求めることができる。シェルターのスタッフになった女性もいる。

・財源

ス タ ッ フ	財 源
コーディネーター 住み込みワーカー（常勤） 3 名 住み込みワーカー（非常勤） 1 名 インドシナ少女向け補導員	地域サービス局（行政）

事 業 費	財 源
少女の補導プロジェクト	地域サービス局（行政）

# STREETWORK PROJECT FOR YOUNG WOMEN

## 少女の補導プロジェクト

### 1. 目的等

C.C.C.を拠点に、カブラマタとフェアフィールド地域の街頭で群れているインドシナの家出少女を対象にしたプロジェクト。街頭へ補導員を送り、少女たちを行政サービスやシェルターへつなぐ。

### 4. 個別サービス（各種）

#### 1) 補導

ショッピングセンター、駅、バスターミナル等、彼女たちの集まる場所で接し、援助情報の提供や案内を行う。補導員は週に 10 ～ 15 時間、年間 800 時間の街頭活動を行い、昨年は 13 ～ 20 才の女性約 1,000 人と接した。そこでとらえられた問題やニーズは、宿泊場所、教育資金の援助、仕事、研修、法的問題、家庭問題、薬物依存症等である。

#### 2) ケースワーク

社会保障省の青少年プロジェクトのワーカーは、40 人の少女がサービスを受けるまで援助した。他にも情報を提供したり、ホームレスに宿泊施設への紹介状を書いたり、様々な必要書類や申込書の記入を手伝っている。10 人はシェルターに受け入れられ、また他の者は自立できるように住宅局へ紹介されて生活保護と住居が確保された。また、妊娠、避妊方法、発育他の健康相談に乗り、必要なサービスにつないでもいる。

法律相談に関しては、ワーカーが弁護士に予約し女性が相談できるように手配する。少年裁判所の職員や他のワーカーの協力で少年院を訪問し、少女の出院後の生活援助に向け、進学や就職、職業訓練、家族との関係について相談や情報提供を行う。

#### 3) クリニック

他のワーカーと共同で、ホームレスの若者のための医療クリニックをつくっている。この年齢の若者は医療サービスを受けるのが困難だからである。また、このクリニックは様々なワークショップを開催し、HIV / エイズ、性交感染症、衛生知識、栄養学他、若者の健康に関する情報を提供している。

#### 4) 就職情報交換クラブ

C.C.C.の他のメンバーと、街頭を徘徊する若者のために組織した。参加率はとても高く、少女の参加もあった。プログラムの終りに若者達は、仕事を探す時に必要な技術、すなわち経歴書、履歴書の書き方、面接のための注意点を覚える。その中から職業訓練センターへ進み、続けてトレーニングを受ける若者もいる。

#### 5) SBS ラジオ（ ）

このプログラムは、ベトナム・コミュニティの要望によって開発されたものである。街頭を徘徊する少年が直面している問題や親と子どものコミュニケーションを改善するための相談、問題を抱えている親がどこで援助を得られるのかの情報提供等を行う。若者も自ら問題を語る。若者及び地域の人達から大変評価されている。

## 6) 情報交換ワークショップ

### コプハム少年院教養トレーニング

当少年院に保護されるインドシナ少年の数が増加しているにもかかわらず、少年院のスタッフは彼らの文化的背景や問題、ニーズに詳しくないため、教養トレーニングを依頼した。少年達により適切な援助が行われるよう、少年とスタッフの間のストレスを解消することにも配慮している。このプログラムのもう一つの成果は、少年の家族の面会の回数の増加や地域訪問の機会の増加である。

### カブラマタ社会保障機関との連絡会議

ワーカーはカブラマタ社会保障機関のスタッフに対して、街頭の少年達が抱えている問題と社会的支援との関連について情報を提供した。この情報には文化的背景から来る

困難、身分証明書がないこと、住所不定であること、時にはスタッフの鈍感さによる対応や情報不足、言葉をうまく話せない問題も含まれている。現在はワーカーとカブラマタ社会保障省のソーシャルワーカーとの協力体制が非常にうまく展開したため、援助手続きは改善された。

## 7) 法律ワークショップ

青少年が警察に攻撃されているという苦情が増えているため、ワーカーは市行政の児童問題担当の弁護士も参加するワークショップを開いた。このワークショップをとおして、彼らは人権意識及び警察への質問、検査、逮捕や暴行を受けた時の法的権利について学ぶ機会を得たとともに、法的サービスへ繋がれた例もあった。

## 6. 関係機関・団体との連携

対象者の相談やニーズが配慮されていることを確認するためにも、ワーカーは様々な機関や組織とネットワークを持ち、ロビー活動や情報交換を行う。ワーカーが連携している機関や組織は次のとおり。

- ・補導員ネットワーク
- ・シドニー難民少年連絡会
- ・ニューサウスウェルズ・インドシナ支援グループ
- ・犯罪を起こした少年の支援プロジェクト（NGO）

---

\*民放のラジオ局。118 カ国にのぼる他国語のプログラムを 24 時間放送している。世界三大多言語放送のひとつ。

## CHILEAN COMMUNITY NETWORK (CCN)

### 6 チリ人のコミュニティ・ネットワーク

#### 1. 目的等

C.C.C.の傘下組織で、チリ語、スペイン語圏のコミュニティを対象に、直接的サービス、支援、情報、他機関へ紹介するサービス、アドボカシー、まちづくり、グループ活動等を目的に設置された。関係機関や他の地域団体と連携し、彼等のニーズや問題が適切に把握されているかを確認し、時には政策変更も促す。

#### 2. 専門スタッフ

ネットワーキング、情報、ロビー活動、アドボカシーが主な仕事である。チリ語、スペイン語圏の人々のニーズが適切に伝えられているか、彼等を取り巻く問題が取り上げられ議論されているかを念頭に、多くのネットワークや機関と共に活動してきた。

活動場面は次の通りである。

- ・フェアフィールド移民連絡会
- ・ニューサウスウェルズ州の補助金を得ているワーカーの生協
- ・フェアフィールド移民・難民女性ネットワーク
- ・西部地区スペイン語ワーカー
- ・連邦アドバイス委員会
- ・C.C.C.のスタッフ・ミーティング
- ・借家アドバイス委員会
- ・社会保障部等のコミュニティ相談
- ・移民、難民の活動グループ
- ・高齢者プログラム委員会

#### 3. スタッフの養成・研修

チリ人のコミュニティに関する諸問題の情報に遅れをとらないために、また、ワーカー自身の能力向上のために、様々なセミナーやトレーニングセッションに参加する。内容は次の通りである。

- ・移民について
- ・オーストラリアの教育制度について
- ・借家に関する法律について
- ・差別について
- ・申請書類等の書き方について
- ・まちづくりの方法について
- ・交渉力について
- ・エイズについて
- ・性的虐待について
- ・家庭内暴力について



- ・家族法について

#### 4．個別サービス

##### 1) 相談

活動場所は曜日によって異なるが、C.C.C.と赤十字ビル内のフェアフィールド事務所で、移民、社会保障、借家、雇用拒否、危機に瀕した際の対処法、正義、家庭内暴力、公共住宅等の問題について相談に応じる。

特に雇用拒否に関して、リバプール移民援助センター、フェアフィールド・コミュニティ援助センター、フェアフィールド移民援助センターの移民雇用促進職員と協力して雇用機会を増やすためのトレーニングと技能向上を目指した活動を展開した。

また、社会保障と移民問題に関しては、支援保険に対する移民の誤解から、多くの移民がオーストラリア入国後に困難な局面に遭遇していることがわかった。彼等は、この契約について詳細を知らされていないので、支援されている家族から離れて生活を始めようとした際に、何の資格もないことを認識させられる。子どもの教育費として家族に支給される家族手当についても、周知されていない状況をふまえ、社会保障省の移民巡回職員は、ワークショップやセッションを開き、この問題を始めまちづくりに影響を与える問題を扱った。

##### 2) ワークショップと情報セッション

350人以上が参加したワークショップと情報セッションの内容は以下の通りである。

- ・教育制度
- ・女性の健康
- ・自己評価、リラクゼーションコース
- ・ワークショップで賢くなろう～高齢者とストレスが多い人々の薬の乱用防止
- ・障害者年金情報
- ・精神保健
- ・借家権情報のマスコミキャンペーン
- ・リーダーシップコース
- ・ドラッグとアルコール
- ・支援保険
- ・社会保障情報

##### 3) 多文化主義に沿った活動

一般の地域住民との文化交流を促すため、多文化主義的活動に積極的に参加する。国際婦人デー、難民週間、ボランティアデー、高齢者週間、国連デー、ラテンアメリカ文化デーなどの催しを通し、女性問題に焦点を当て解決策を探ったり、定住に関する問題を取り上げ福祉機関がいかに彼ら難民の声を吸い上げなくてはならないかをアピールしたりしている。他に民族的なパフォーマンスも披露する。

この催しは地域に大きなインパクトを与えた。というのも、フェアフィールド市長と C.C.C.の代表がお祝いに駆けつけ、10 以上のスペイン語圏のコミュニティから約 600 人が参加したこの活動を評価したからである。

#### 4) 若者対象のプログラム

学校の休日に合わせて、フェアフィールド移民援助センターを始めとする様々な団体のワーカーが、教育的なレクリエーションを企画・実施する。

#### 5) 女性対象のプログラム

女性が自信を高め満足感を得られるように、工芸の展示、小旅行を企画・実施する。また週1回、年令、国籍、宗教に関係なく誰でも参加できる会合を開いている。

#### 6) 高齢者対象のプログラム

チリ人の高齢者が他の人々と交流することにより孤独に陥らず、自己信頼力を高めることを目的としている。担当ワーカーの役割は、定期的、積極的にメンバーを支援し、多くの活動を計画することである。また、高齢者を適切なサービスにつないだり、ニーズに合った情報セッションやワークショップも企画・実施する。

多くの人々はこれにより自己信頼力を取り戻し、就職したり、ワーカーを助けたり、地域のボランティア活動に参加したりする。フェアフィールド美術館で、壊れたおもちゃの修理に参加する人もいた。

#### 7) 英語クラス

中年を対象に、誰でも参加できる英語クラスを設置。自信と信頼を取り戻し、お互いの能力向上を目的とする。

#### 8) リラクゼーションのための体操・自己開発・栄養を考えるグループ

不況の影響で無職となり、それが原因でストレスがたまったり病気がちになったチリ人を支援することを目的につくられた。ストレスの状況は、家族間がうまくいかなかったり、結婚に破れたり、アルコール・ドラッグへの依存等さまざまである。彼等の自信を回復させ、労働市場に目を向けさせるために、各レベルのセッションを用意した。

#### 8. 財源

資金援助は、フェアフィールド市議会、フェアフィールド移民援助センター、地元の商店から受けている。

# NICARAGUAN COMMUNITY ASSOCIATION

## 7 ニカラグア・コミュニティ協会

### 1. 目的等

本協会は 1988 年に設立され、ニカラグアからの移民社会における諸問題に対処することを目的としている。

オーストラリアへのニカラグア人の移民は 1984 年に始まった。以来、言語の障壁、失業、孤立や気鬱などの問題が生じている。また、故国に残った親族と再会することの困難さが大きな問題となっている。政府が移民政策を変更したことにより、移民や難民の人々が故国の親族に支援しにくくなっている状況もある。本協会は、移民到着時の必須情報を提供するに当たり、戦乱その他の理由で故国を去らねばならなかった人々の心の深い傷について今まで十分な配慮がなされなかったことを問題にしたい。新しい国に馴染む過程において青少年とその親たちとの間には軋轢が生じる。家族全体がカルチャーショックに立ち向かうと同時に、子どもたちの成長過程の変化にも対処することになるのである。

ラテン・アメリカ支援 NGO の支援を受けて、ニカラグア社会の一部では農業での雇用拡大のため様々なプロジェクトを立案し、また、輸入品に変わる物品生産に関する提言などを政府に対し活発に行ってきた。しかしながらこれらの試みは資金不足と政府からの支援不足で実現していない。このことがオーストラリアに対し有益な活動を行おうとした人々に挫折感を与えている。一方、ニカラグア女性の間では労働者生活協同組合の結成気運が盛んである。

新しい環境に適応していくのは易しいことではない。特に戦争体験を有する難民に対しては特別な考慮が払われて然るべきである。

### 4. 個別サービス（活動）

#### 1) まちづくり

以下の事柄に取り組んでいる。

- ・相談・情報提供
- ・キャンペーン
- ・ニカラグア文化の紹介
- ・法律の異同の最新情報を提供するため、他のスペイン語使用機関や社会保障省、移民局、多文化地域社会教育担当職員と協力し、年に数回、情報セミナーを開催。
- ・地域の団体がプロジェクトを企画している場合の情報提供、助成金、他団体との調整、提出書類の整備等
- ・地域の権益の擁護および陳情活動
- ・上記活動のための他地域のワーカーとのネットワーク構築
- ・サービスや活動の効率・効果に関する政府諸機関と提携した評価

#### 2) 相談

移民、経済困難、住居や営繕問題について電話相談及びグループ形式による相談を行っているが、

需要が非常に高い。

### 3) 節税

スペイン語のコミュニティに対し節税トレーニングへの参加を促進している。毎月曜日・水曜日、午後4時半から6時までC.C.C.で開催。

### 4) 健康推進ワークショップ

1991年9月、社会保障省や住宅及び地域サービス局の指導により『薬を賢く使う』キャンペーンに参加。薬物治療の長短両面と薬の正しい使い方を啓蒙。キャンペーン期間中にスペイン語パンフレットの制作・配布、展示、ワークショップなどが多くの人々の助力を得て行われた。

### 5) 借家人の権利（スペイン語圏の人々のための情報キャンペーン）

借家人情報キャンペーンは、西シドニー借家人サービス、ラテン・アメリカ支援NGO、その他のスペイン語使用機関によって企画された。大勢の人々の助力によるスペイン語記事が、スペイン語新聞に掲載された。

### 6) フェアフィールド市スペイン語コミュニティへの相談サービス

フェアフィールド市議会、ラテン・アメリカ支援NGO、他のスペイン語使用機関の協力を得ている西シドニー援助機構の相談サービスを支援した。1992年4月に発足したが、この種の相談が組織されたのは初めてである。若者や女性からの需要が増えているが、グループ活動のための適当な集合場所に事欠いている。

### 7) ラテン・アメリカ文化に目覚める日

チリ協会、サルバドル協会、ラテンアメリカ支援NGOの協力のもと、フェアフィールド地域で1992年9月20日に計画され、フェアフィールド市議会の認可を得た。新しく移住してきた人々や難民を重点に、スペイン/ラテンアメリカ・コミュニティのプロフィールを紹介する一助となるよう計画されたものである。コミュニティの連携を強めると共に、より広い意味でオーストラリア社会との連携を強化することを目的としている。個々人を尊重すると共に、互いの文化を共有し学びあうためである。本プロジェクトは当初の目的を殆ど達成し、当日600名以上め参加者があり、成功裡に終わった。

### 8) ニカラグア・グループに対する技術指導

ウェテリル・パーク職業訓練センターにおいて12週にわたる女性のための洋裁コースが始まった。大学と交渉の結果、このコースは今年（1993年）も引き続き行われ、受講生はファッション検定コースを修了することになる。この事業は、ウェテリルパーク職業訓練センターの職員からフェアフィールド及びカブラマタ地域に最適な技術指導のモデルと認められている。英語教育のコースもある。カブラマタ地域からの受講生に対しては、C.C.C.による送迎サービスがある。

### 9) 高齢者向けサービス

外出、ピクニック、セミナー、老人週間などへの参加がある。しかしながら、高齢のニカラグア

人には、他のスペイン語圏の人々との交流や保守的な習慣の改変、オーストラリアでの生活の不  
適応から孤独になる人々も多い。種々の高齢者グループと交流することや適当と思われる活動へ  
の参加などを推進することが望ましい。

#### 10) 青少年向けサービス

文化的または他の適切な活動への参加が推進されている。今年、運営委員会は地域のメンバーの  
協力を得て、青少年たちがイベントの企画に積極的に加わるように努め、オーストラリア初の『ミ  
ス・ニカラグア '93 年』が行われた。この催しは青少年の積極的な参加を促す上で効果的であっ  
たとともに、経験を共有し、事業を立案・実施する際に必要な技術取得のための良い機会となっ  
た。若者はまた、コミュニティ・ワーカーの企画によるスポーツ行事やリヴェンデ・キャンプ、  
乗馬、ピクニックその他にも参加している。スペイン語による若者向けサービスはさらに多くを  
必要とされている。

#### 11) 陳情と擁護

ニカラグア人の権益擁護および活動のためのより良い条件づくりを目的に、下記の組織への積極  
的な参加を通して、陳情と擁護活動を行っている。

- ・フェアフィールド移民労働者相互機関
- ・社会保障省
- ・オーストラリア難民女性全国委員会
- ・移民局

#### 8 . 財源

ス タ ッ フ	財 源
コミュニティワーカー	移民局

## YOUTH SERVICES

### 8 青少年のためのサービス

#### 1. 目的等

フェアフィールドはオーストラリアで最高の失業率、未熟練・半熟練労働者数及び英語を母国語としない人々、自動車事故の発生件数などの数字が続く地区である。その上今年もまた、カブラマタ地区の何百もの若者が組織犯罪の一味であるというような偏見に満ちた報道がメディアによってなされた。特定の民族グループと犯罪を結び付ける傾向は緊張を高め、人種差別的態度を増長させるだけである。正確かつ公正な報道をメディアに要求することが急務と思われる。このような状況の中で、この地区の若者たちに将来が明るく映らないとしても不思議はない。当センターは若者の要請にできる限り答えようと努力しているが、資金も場所も不足している。

若者からドラッグに関する救済の要請が急増している。カブラマタ警察署が扱ったドラッグ関連の事件数は今年前半だけで去年の総数と同じになっている。緊急に対処すべき問題としてセンターでも取り上げている。センターはまた、家族とうまくいかずに、家出をする若者の数の増加を憂慮している。家族支援サービスの拡充や広報活動が必要と思われる。

#### 2. 専門スタッフ

12 名

#### 4. 個別サービス

センターは9つのプロジェクトを企画しているが、その内6つは十分な助成金を得ていない。

- ・ 9才から 11 才までの子どもの英語、算数、理科の学習援助
  - ・ 12 才以上の子どもの進路情報、学習援助、職業訓練、就職相談
  - ・ 外国人のための教育プログラムや金銭問題への相談及び情報提供、または住宅・法律・健康問題に関する情報提供と支援
  - ・ 家庭問題に関するカウンセリング
  - ・ コンピューター、自己防衛、エアロビクスなど、若い女性向けの教育およびレクリエーション活動
  - ・ 民族を異にする青少年たちのキャンプその他の活動
- また、次のように革新的な取り組みを行っている。
- ・ HIV / エイズの教育パンフレットの制作
  - ・ ドラッグ用の注射針の交換プログラム
  - ・ カブラマタでの射殺事件を契機にカブラマタ少年特別捜査隊を結成。暴行事件を未然に防ぐためのネットワークを地域につくるために活動している。

以上の活動が波及して深夜バスプロジェクトが発足した。街を徘徊する若者たちが必要とするアクセスと支援を行っている。このバスはまた週末に注射針の交換場となる。毎夜およそ 50 ~ 60 名の若者がバスを利用している。

#### 7. 運営等

青少年小委員会

# CABRAMATTA CIRCUIT BREAKER

## 識字プロジェクト

### 1. 目的等

1992 年現在、フェアフィールドの州立高校には 1 万 1 千人を超える学生が登録している。そのうち 70 % は英語を母国語としない。かなりの数の子どもがこの国にきたばかりである。このプロジェクトは英語を母国語としない青少年の高等教育、職業訓練、就職活動を支援するものである。カブラマタ地区では特に 12 才の子どもに焦点を当て、読み書き、英語、コミュニケーション、求職方法、自尊心を持つことなどについてクラスを設け、情報提供やレクリエーション活動、個々人に対する支援を行っている。

現況は以下のとおりである。

- ・ 91 年度共通テストで地元高校生の約 60 ~ 70 % は成績が全国平均以下であった。
- ・ フェアフィールド地区の 15 才から 19 才の若者の失業率は 91 年度調査で 28.7 % である。92 年 3 月の新たな調査結果はこれを超えると思われる。
- ・ 文部省はフェアフィールドの 9 つの州立高校のうち 6 校を特別支援が必要な状況にあると認識している。英語を母国語にしない人々のための職業訓練コースは数多くあるが、一定の英語力を有することを前提にしており、新たにこの国に来た移民は参入が難しい。
- ・ 基礎的な英語講座の需要は大きい、会場の確保が追いつかない。
- ・ 修学のための英語力をつけるには 5 年から 7 年かかるという研究結果がでているが、大方の若者は十分な期間のないまま共通テストや学位取得に直面している。

### 2. 専門スタッフ

3 名

地域の学校のスタッフと職業訓練センターの協力

### 4. 個別サービス (1992 / 93 年, 活動成果)

- ・ 92 年度 12 年生の 86 % が大学ないしは職業訓練センターに進学。
- ・ 92 年度 12 年生のうち落第は 9 % に止まる。
- ・ ウェスタン・シドニー大学の特別枠に 5 名が受け入れられた。
- ・ カブラマタ、キャンレイ・ヴェル、フェアフィールド、フェアヴェルの各高校を中心に地域の高校生が集まり、107 人がプロジェクトを修了した。
- ・ 青少年局の企画に 50 名が参加。
- ・ ボニリグ職業訓練校の協力で 21 名が二つのコンピューター入門コースを修了。
- ・ 37 名の女子がエアロビクスのクラスに参加。
- ・ 31 名が自己防衛コースに参加。
- ・ 共通テストの結果を見て 40 名の学生が進路相談を受けた。一人あたり平均 8 から 10 の職業訓練センターのコースを申し込んだ。
- ・ 約 20 名が特別枠を利用して大学に応募した。



- ・ 92 年 11 月のリバプール職業訓練センターのインフォメーション・デーに 13 名が参加。
- ・ 92 年 12 月のリバプール職業訓練センターのコンピューターと会計、二つのワークショップに 14 名が参加。
- ・ 93 年 1 月にリバプール職業訓練センターで 17 名がカウンセラーの面談を受けた。
- ・ 92 年 12 年生 20 名が 93 年の同窓昼食会に参加。
- ・ 4 日間にわたる休日プログラムを企画。多くの参加をみた。
- ・ 職業訓練センターの夕べを 2 回実施。
- ・ センテナリアル・パークをはじめ何カ所かへの遠足を実施。

## 8 . 財源

不利な状況にある青少年の支援のための財源は限られている。カブラマタ識字プロジェクトは 60 クラスで必要としている人を支援している上、4 つの地元高校の学生を支援している。多くの青少年がプロジェクトの支援を受けないままである。

ス タ ッ フ	財 源
臨時講師	ニューサウスウェルズ青少年課（行政）

# DETACHED FAMILY COUNSELLOR PROJECT

## 分離した家族のためのカウンセリング

### 1. 目的等

1988 年以来、インドシナ・中国系住民の親子の問題についてカウンセリングを中心に解決策を探っている。移民となったことで親世代は、自分たちを支える親族たちと切り離され、異なった文化の中で子供の養育に直面するため、多大なストレスを背負い込んでいる。一方、子供たちは十代にさしかかると親とは違う価値観を身につけ、親世代と対立するようになる。

### 4. 個別サービス（活動）

#### 1) ケースワーク

最近、地域サービス局が行ったアンケート調査では、本プロジェクトを推進するためには何よりも個人的なケースワークを基幹にすることが大事であるとの結果がでた。しかしながらプロジェクト発足当時から、カウンセリングという概念がインドシナ・中国系住民にとって馴染みのないものであるということが懸念されている。実際、彼等は家族の問題を解決するには通常親族を頼り、専門家の力を借りるのは親として能力が無いことの証明であり、『顔をつぶされる』と考える者が多い。したがって本プロジェクトに問題が持ち込まれた時には、事態は既に子供の家出など容易ならざる状況に陥っている場合が多い。

ケースワークの他に下記の活動が行われている。

- ・親子の断絶問題についての啓蒙やカウンセリングの宣伝、信頼関係形成のためのグループ活動やコミュニティの啓発活動
- ・自分たちで問題解決を図る技術を身につけるグループ活動
- ・移民してきてから日が浅い家族の親子双方を援助する活動。社会に溶け込むまでの数年間は、環境の激変が親子の断絶を招くことが多い。

#### 2) ベトナム人家族のための委員会

92 年 11 月にベトナム家族の親子問題を話し合うセミナーが開催された。セミナーの結果を受けて上記委員会が結成され、4 つの分野（地区懇話会、記録 / 陳情、グループ活動、社会教育）において活動することになった。93 年 5 月にはラジオの相談番組が発足し成果を挙げている。ベトナム語新聞やラジオ番組での広報活動も行われている。

#### 3) シドニーのインドシナ・中国系難民青少年支援グループ

コミュニケーションやキャリアについてのワークショップを開催したり、レクリエーションの場を設けたりしてベトナム人青少年が社会に適合するのを支援する。かつて参加者であった青少年が後に主催者となり活動を担う場合が多い。そのようにして社会で輪が広がっていく。

#### 4) 学生のグループ

昨年、ミラー技術学校の生徒を対象とした一連のワークショップを C.C.C.のワーカーと共に企画

した。およそ 50 名の学生がコミュニティ・サービス、高等教育、職業訓練、技術取得についてのワークショップに参加した。後日これらの学生は C.C.C.での別の活動にも参加した。しかしながら、同校が会場の提供を断ってきたので、現在は別の会場で活動している。参加者のために C.C.C.の青少年活動を紹介するパンフレットをインドシナ・中国語で用意してある。

#### 5) 親のグループ

カブラマタ地域保健所のバイリンガル・カウンセラーの助力を得て組織した。週 1 回 6 週間にわたって、グループで親子の問題を話し合う。

#### 6) 土曜クラスと青少年指導プロジェクト

この国に新たに来た学生の英語、会話、宿題の手助けをするために毎土曜日に活動している。英語集中教育センターから高校に進学するにはより多くの助けを必要としている青少年に、今だ援助の規定が設けられていない。個人あるいは家族間の問題を防ぐために、移民となった初期の段階での手助けが大事と思われる。

フェアフィールド地区のインドシナ・中国系青少年に対する高等教育や職業訓練および雇用促進のため、青少年指導プロジェクトがある。

#### 7) シドニー難民青少年機関

難民青少年、特にインドネシア・中国系の若者の問題について活動している。少数民族や青少年の犯罪などについて、政府の諸機関と連携して青少年の擁護や相談に当たっている。

ス タ ッ フ	財 源
コミュニティワーカー	地域サービス局

# PARENTS YOUTH DRUG AND ALCOHOL PROJECT

## ドラッグ・アルコール依存症の子どもをもつ親のためのプロジェクト

### 1．目的等

資金が底をついた93年初めまで、バイリンガルのコミュニティ講師によって『十代の健康を守ろう』計画を推進していた。この計画は、異文化の人々に対してドラッグや飲酒について啓蒙をおこなうことを目的としており、他地域の活動のモデルともなった。

### 4．個別サービス（活動）

#### 1）注射針交換

ここ数年にわたりドラッグ用の注射針の交換プロジェクトを推進しており、成功をおさめている。

#### 2）リラックスするためのクラス

若い女性たちの間でTRANSLAYZERの使用が問題になっている。本プロジェクトは薬を使用することなくリラックスする術を伝授するためのクラスである。今年末には若い女性たちとドラッグの関係を扱ったビデオが完成する予定である。

### 8．財源

スタッフ			財源
C.C.C.	職員 2 名	コ	C.C.C.
コミュニティワーカー			

# FAIRFIELD MULTICUTURAL YOUTH PROJECT

## フェアフィールド若者のための多文化交流プロジェクト

### 1. 目的等

フェアフィールドに住む文化背景を異にする若者たちの関係を改善し、交流を促進するために 10 年前から行っている。今後の課題として、当プロジェクトの規模範囲の再検討、姉妹都市交流計画の対象をアボリジニの人々に広げることが考えられる。

### 4. 個別サービス（活動）

#### 1) 街を徘徊する若者たちへのプロジェクト

エイズパンフレットの作成

本プロジェクトは HIV / エイズ問題に取り組んでおり、その一環である。

友情キャンプ

補導、女性シェルター、他の C.C.C.プロジェクト、バンクスタウン多文化青少年サービス、サウス・ウェスト・オルタナティブ・プロジェクト、フェアフィールド市議会（504 件の寄付）、ベトナム・オーストラリア福祉協会、などからの助力を得て、92 年 12 月にフォスターでキャンプを開催し大きな成果をあげた。

#### 2) 姉妹都市との交流

昨年はメリワの青少年を迎え、今年はメリワに出かけて『青少年週間』に参加した。このプロジェクトには若い女性のプロジェクト、ウェセリルパーク青少年開発プロジェクト、当プロジェクト、メリワ青少年サービスが関与している。

#### 3) 教育問題への取り組み

地区の教育センターと協力してワーキングパーティーを企画した。

#### 4) マウント・プリチャードにおける実践

1992 年 12 月、当プロジェクトが対象とした若年失業者たちへの活動は効を奏さず、若い世代に対する放課後のサービスは資金不足で定着しなかった。

### 6. 行政及び関係機関・団体との連携

当プロジェクトは青少年活動サービスと社会保障省の青少年指導計画の運営委員会のメンバーである。C.C.C.の代表としてフェアフィールドの青少年の利益のため活動している。また、今年度は 10 余りの他団体と接触し活動を支援した。

### 8. 財源

スタッフ	財源
コーディネーター（非常勤）	地域サービス局

# STREET VIDEO PROJECT

## ビデオ・プロジェクト

### 1．目的等

若者たちをビデオの制作に参加させることを通して青少年問題の解決を図る。

今年度は 10 本のビデオを制作した。参加者の 52 %が進学し 22 %が就職し、プロジェクトは目的を達成しているが、創造的な分野でキャリアを積むという点では、参加者たちは途上で道を断ち切られているという懸念がある。

### 2．専門スタッフ

非常勤のコーディネーター一人ですべてを切り盛りしているので、プロジェクトの質を保つのに困難がある。

### 4．個別サービス（活動）

このプロジェクトを巡る諸問題は以下のとおりである。

- ・参加者のアフターケアをする時間的余裕がない。
- ・西部地区には職業訓練センターあるいは補習クラスが無い。また、ビデオ制作や演劇に興味を持つ子どもへの支援体制が極めて限られている。
- ・参加者の就職ないし進学を促すと同時に、ビデオ制作に参加することを奨励する難しさ。
- ・センター改築に伴い本プロジェクトはバスケット・ボール・スタジアムのロビーを借りて活動したが、数々の不都合がありそのため退会した者もいる。現在は新しいプレイリー・ウッド・コミュニティ青少年センターに場所を確保した。
- ・設備は最小限に抑えられ、ここ 4 年間修繕されていないので、致命的な故障が起こる可能性が高い。ただし編集設備を備えているため、フィルムの仕上げに他所へ行く必要がない。

### 8．財源

財源規模からクラスは定員 15 名となっている。しかし限られた資金の中で、ビデオ制作を教授することは困難である。

スタッフ		財源
コーディネーター（非常勤）	1 名	C.C.C.

## STREETWORK PROJECT

### ストリート少年支援プロジェクト

#### 1. 目的等

インドシナ・中国系の青少年（ベトナム、ラオス、クメール）でカブラマタの街を徘徊する者、またボーダーラインにいる者とをサービスにつなぐことを目的とする。彼らは必要なサービスの利用方法を知らないことが多いので、コーディネーターは彼等が集まるカブラマタ中心街付近のショッピング・センター、駅、図書館、ビリヤード、ゲームセンターなどで接触を試みる。昨年は 510 時間を費やし、ベトナム、クメール、ラオス、中国、スペイン、アラブ、オーストラリア生れの青少年およそ 2,000 人と関わった。14 才から 18 才を対象とし、総数の 21 %が女子であった。

この活動により浮かび上がった問題は以下のとおりである。

- ・ 18 才未満の青少年への法律サービスの欠如
- ・ ドラッグ問題の増加
- ・ 適当な宿泊施設が確保されていないこと
- ・ 青少年と警察との関係に改善されるべき点があること

#### 4. 個別サービス（活動）

コーディネーターのケースワークを通して、目下の問題は訴訟、警察 / 法律関連、宿泊設備、家族との軋轢、勉学、経済的援助などであることがわかった。コーディネーターは情報を提供し、支援している。ケースワーク以外の活動は以下のとおりである。

##### 1) 新たに来たベトナムの青少年への情報セッション

3 つの高校の英語集中講座センターに所属する学生を対象とする。

##### 2) ワークショップ

HIV / エイズ、警察と法律、性関連の問題、飲酒運転など自分たちに関連の深い事柄について話し、考える機会を与える。

##### 3) カブラマタ深夜バス

金曜と土曜の夜に運行し青少年の足になると共に、ドラッグの注射針交換場としても機能する。

##### 4) ラジオ番組

街を徘徊する青少年の問題についてベトナム人社会の注意を喚起するためのラジオ番組を放送する。

#### 6. 行政及び関係機関・団体との連携

- ・ 社会保障省との協力でベトナム人のホームレスの青少年と接する。
- ・ 雇用・教育と職業訓練局と協力し、フェアフィールド地区のベトナム人青少年のための指導計画を策定する。
- ・ カブラマタ地区の青少年のための多目的青少年センター建設のために、フェアフィールド市議会はじめ関係行政機関に対して働きかける。

## 8 . 財源

スタッフ	財源
コーディネーター	C.C.C.



# STUDY ASSISTANCE PROJECT

## 学習援助プロジェクト

### 1. 目的等

1985 年から、英語を母国語としない子ども達の英語力向上と勉学の手助けを目的として、9 年生から 11 年生の英語の初級者から中級者を対象に、学期中の放課後に活動している。

### 2. 専門スタッフ

英語を母語としない学生の扱いにおいて経験豊かで、問題意識の高い教師が指導にあたる。教師は勉学以外の問題についても個人的に相談に応じる。

### 4. 個別サービス（活動）

休日には課外活動が計画され、シドニー周辺を訪れたり、行事に参加したりする。学生はコーディネーターと個人的に連絡をとることができ、その際に進学、職業訓練、就職や他のサービスに関する情報が入手できる。

この種の活動への需要は大きいが、州立学校の予算削減に伴い活動が狭まれてきている。

### 8. 財源

スタッフ	財源
コーディネーター 課講師	4 名 ニューサウスウェルズ州青少年

## YOUNG WOMEN'S PROJECT

### 若い女性のためのプロジェクト

#### 1. 目的等

フェアフィールドに住む 12 才から 25 才の女性を対象に低料金の活動 / ワークショップを提供するのが目的である。前身の『女の子たちは楽しみたい』の発足以来 7 年の活動歴があり、マウント・プリチャード、カラマー・フェアフィールド東部、ヴィラウッドなど、かつては含まれなかった地域にまで活動は広がっている。

活動は以下の 3 つの分野に分けられる。

教育...タイプ、自己防衛、コンピューター

レクリエーション...キャンプ、社会見学、水中エアロビクス

自己向上...自尊心や自信の育成

本プロジェクトは活動の焦点を若い女性たちの擁護においているが、将来はもっと多様なレクリエーション活動をも提供していきたいと考えている。

#### 4. 個別サービス（活動）

##### 1) 若い女性の問題グループ

今年本プロジェクトが力を入れる活動の一つである。女性労働者たちと若い女性たちが定期的に集まり共通する問題について話し合う。一回目の会合をボニリグ青少年センターで開催し、異なった文化背景を持つ 18 人の女性が集まった。話し合いの結果、下記の事項が関心の中心であることが分かった。

- ・ 交通手段の欠如
- ・ 健康
- ・ 若い女性たちに対する特定サービスの欠如
- ・ 学校
- ・ 親

グループは上記の問題について討議を重ねると同時に、ピクニックやワークショップを開催する予定である。

フェアフィールドでは女性のための特別なワーカーやサービスが用意されていない。性的虐待、家庭内暴力、健康問題など女性に関係が深い問題について対処するために専門のワーカーやサービスの常備が望まれる。特に、英語を母国語としない女性たちの相談に応じるためには特別な考慮が必要である。

##### 2) 若い女性たちのためのビデオ講座

ビデオ制作技術を 10 週間の講座で教える。近年問題になっているドラッグと若い女性たちの関係を取り上げ、啓蒙活動を兼ねた。

##### 3) カラマー若い女性たちのグループ

過去数カ月の間に、カラマー・フェアフィールド地区に移住してきた若い女性の数が増加し、それと共に関連問題も増えたようにみえる。それらの女性たちの多くが家族から孤立していたり、

同棲中であつたり、幼い子どもを抱えた片親家庭であつたりする。このため、問題に対処するネットワーク作りが急務であつたが、まず、親業のコースが発足し、14 人の参加者を得た。現在第 5 週目で平均 12 から 17 人の参加がある。今後も随時、必要に応じた活動を行う予定である。

4) 若い女性たちのための自己防衛講座

92 年に 2 講座が始まり 93 年も引き継がれた。平均 20 名が参加する。

8. 財源

スタッフ	財源
臨時講師	地域サービス局

# YOUTH DEVELOPMENT COUNSELLOR ANNUAL REPORT

## 青少年問題カウンセラー年次報告

### RESOURCING ADOLESCENTS GAINING ESSENTIAL BROKERAGE PROGRAM

#### 未成年者が生活必需品を獲得するために - 仲介プログラム -

#### 1. 目的等

バンクスタウン・リバプールとフェアフィールドのホームレスや危機に直面している若者の救済を目的としている。若者たちは主にインドシナ・中国系の出であるが、異なった 19 の文化背景を持っている。昨年は 592 人の若者を援助した。このうち 257 人はなんらかの仲介を、170 人は安全な居場所を、75 人は経済上の安定を必要としていた。また 11 人は教育問題、6 人は就職や職業訓練の問題、18 人は家庭問題、24 人が法律問題、31 人がドラッグ問題で援助を必要としていた。

#### 2. 専門スタッフ

ホームレスの若者に適当な住居を確保するため、本プロジェクトでは宅建業者資格の認可を求めている。

#### 4. 個別サービス（活動）

本プロジェクトの主要部分ば効果的な仲介モデルを確立することにある。このサービスは未成年者が生活必需品を獲得するためのもので、定住促進プログラムを通して地域サービス局より補助金を受けている。補助金は以下の項目に使われた。

- |      |              |
|------|--------------|
| ・施設費 | ・プログラム費用     |
| ・交通費 | ・プログラム設備費 *  |
| ・食料費 | ・プログラム活動費    |
| ・衣料費 | ・プログラム材料費    |
| ・教育費 | ・特別プロジェクト ** |
| ・医療費 | ・訓練費         |
| ・その他 |              |

仲介プログラムの実践には 9 つの施設サービス、2 つの保健サービス、14 のコミュニティ・プロジェクトが協力し、性的虐待、自殺、暴力、HIV 注射針交換問題についての教育が行われた。

#### 6. 行政及び関係機関・団体との連携

本プロジェクトは定住促進プロジェクトと緊密な関係にあり、ワーカーは国の組織である、住居のための全国青少年連合に参加している。

\*プログラム設備費とはキャンプや登山用具の購入費である。

\*\*特別プロジェクトとは血液検査その他の病理学的検査費用、深夜バス、性的虐待の犠牲となった少年に対するカウンセリング費用などをさす。

## 8．財源

本プロジェクトは 257 人の若者を援助したが、一人当たりの費用は 129.69 豪ドルであった。定住促進の補助金が不足しているため、多くのサービスが財政危機に陥っている。早急な解決が望ましい。

ス タ ッ フ	財 源
カウンセラー	地域サービス局（行政）
コミュニティワーカー	地域サービス局（行政）

# FAIRFIELD AREA HOME MODIFICATION AND MAINTENANCE OUTREACH SERVICE

## 9 フェアフィールド地域住宅改造および営繕サービス

### 1．目的等

フェアフィールド行政区に住む高齢者及び身体障害者の住居の改築ならびに営繕を低料金で行い、それらの人々が施設に入所しなくても在宅で生活していけるように支援することを目的としている。

### 4．個別サービス

手すりやスロープの設置、浴室や台所を使いやすくするための改築を行う。営繕は電球や蛇口の取換えから配管工事にいたるまで広範にわたる。

全年度の実績は以下の通りである。

- ・大きな営繕工事 2 件
- ・簡単な営繕工事 50 件
- ・大きな改築工事 32 件
- ・簡単な改築工事 69 件
- ・簡単な配管工事 6 件

### 7．運営等

フェアフィールドにおけるほとんどの住宅営繕サービスの代表者たちと本サービスの利用者たちで構成する小委員会によって運営されている。昨年末には活動が見直され、サービスの効率と質の向上について数々の提言があった。それに基づき、現在顧客の再検討を含む改革が進行している。

助成金の増加により今年度からスミスフィールドに専用の作業場を借りることが可能になり、道具や資材の保管場所が確保された。

### 8．財源

ス タ ッ フ	財 源
建築士・コーディネーター 大工 事務員（非常勤）	住宅局

〔参考資料〕

- 1 “ CABRAMATTA COMMUNITY CENTRE - 14TH ANNUAL GENERAL MEETING ” 1993.10
- 2 “ AUSTRALIAN IMMIGRATION - A survey of the issues ”  
Bureau of Immigration and Population Reserch 第2版  
（移民及び人口研究所発行のオーストラリア移民についての調査研究）
- 3 “ THE HUMAN RIGHTS AND EQUAL OPPORTUNITY COMMISSION ”  
Summary of Responsibilities and Functions  
（人権及び機会均等委員会の責任と役割についての概略）
- 4 “ ETHNIC SPOTLIGHT - Journal of the Federation of Ethnic Communities ”  
Councils of Australia INC.第30号，1993年9月  
（オーストラリア民族組織委員会連盟の月刊誌）

在住外国人生活支援活動ハンドブック

## 神奈川における多文化共生社会をめざして ～ オーストラリアの実践に学ぶ ～

発行日	1996年3月
発行者	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 総務企画部企画課 〒221 横浜市神奈川区沢渡4-2 電話 045(311)1421 FAX 045(312)6302
印刷	株式会社 あんざい 〒233 横浜市港南区下永谷3-24-29 電話 045(822)8497 FAX 045(824)1303